

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2015.2.15 No.220 連絡先 FAX 042-555-1911



2月23日(月)～28日(土) 富士演習場でMV-22オスプレイ離発着訓練

2月12日、南関東防衛局より関係自治体に連絡がありました。

「本日、米側から、米海兵隊のMV-22オスプレイ2機が、2月23日(月)から同月28日(土)までの間、東富士演習場及び北富士演習場において離発着訓練を実施する可能性がある旨の情報がありましたので、お知らせします。」

また、2月13日、「東富士演習場週間使用計画」第8号(平成27年2月第4週)には、「2月23日(月)から2月28日(土)までの各日は、1400から2130までの間、2機のティルトロータ機が演習場全域において発着訓練を実施します。」と記載されています。

厚木への飛来は明記されていません。以上は「東富士へのオスプレイ飛来・配備・訓練に反対する御殿場・裾野・小山の住民の会」からの情報です。

横田基地に飛来する可能性は大きいと考えられます。「訓練中止を！」の声をあげましょう。



何しにきたのか CH-53Eが 2機飛来

2月12日15時頃、海兵隊・強襲用大型ヘリコプターCH-53E スーパースタリオンが2機来しました。2月13日9時38分、2機同時に離陸しました。2機(YJ03)(YJ09)は、カリフォルニア州ミラマー海兵隊基地第465海兵重ヘリコプター飛行隊の所属です。

2004年8月、沖縄国際大学に墜落したのは米海兵隊CH-53Dでした。

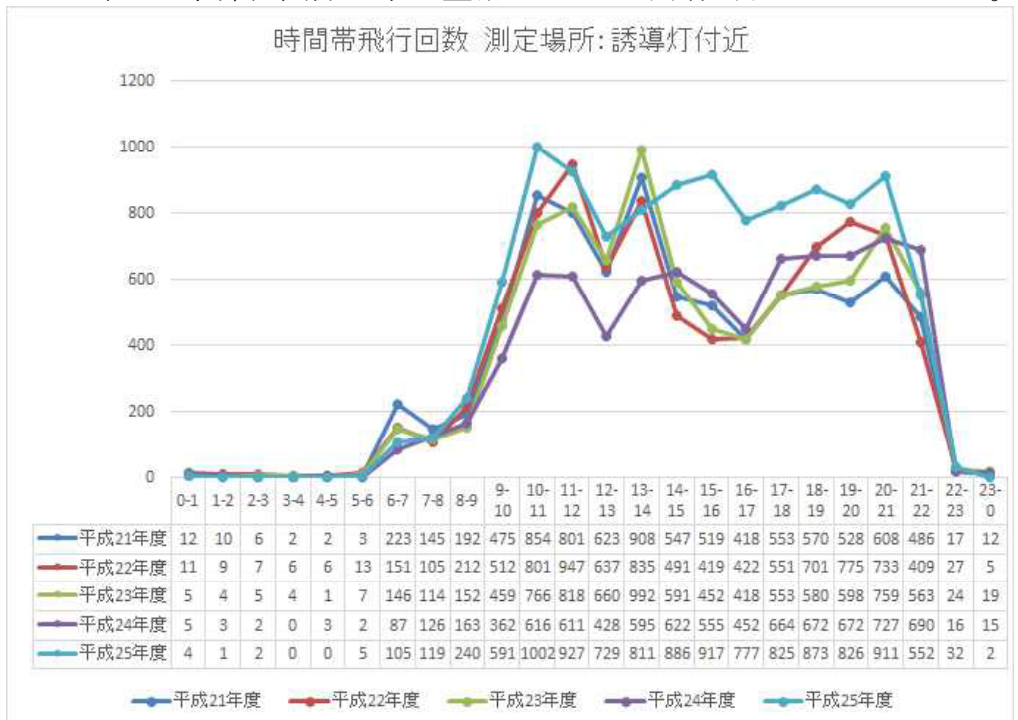
夕方・夜の飛行増

右のグラフは、横田基地の2009年度から2013年度までの年度ごとの、時間帯飛行回数です。

測定場所は、横田基地南側の誘導灯付近です。(福生市ホームページより)

年度ごとの全飛行回数

2009年度	8,507回
2010年度	8,799回
2011年度	8,686回
2012年度	8,076回
2013年度	11,137回



横田基地第459空輸飛行隊と陸上自衛隊 ヘリで合同訓練 (No. 220 の裏面)



1月29日、横田基地の第374空輸航空団 第459空輸飛行隊のヘリコプター部門と陸上自衛隊・立川基地・東部方面航空隊との合同訓練が行われたと、米軍横田基地のホームページにアップされていました。(写真も。)

米軍と自衛隊は目指すものが同じ、ということで、陸上自衛隊員が横田基地の2機のUH-1Nヒューイヘリコプターに乗り込み、双方がヘリコプターをどう飛ばすのかなど、相互に理解する手助けとなる訓練が行われたようです。陸上自衛隊員は、空軍の空中フォーメーション、機動作戦や専門用語をかなりよく身につけることができた、米軍メンバーと空中にいるとき、陸上自衛隊パイロットは、よろめくような戦闘巡航、戦闘拡大のようないくつかの違ったフォーメーションを観察した、などとも書かれています。操縦テクニックの異なる部分を、同じようにするための訓練で、富士山の近くまで出かけて行ったようです。

嘉手納基地所属のF-15戦闘機、5.4キロの部品落下 事故頻発

地元紙などの報道によると、米空軍嘉手納基地所属のF-15戦闘機が4日、飛行中に左の垂直安定板の先端部分(重さ5.4キロ)を落下させました。金属製で縦約23センチ、横約15センチの円すい形の部品で、沖縄防衛局が嘉手納基地から受けた連絡によると海上に落下させた可能性が高いとしています。けが人などの被害は確認されていません。F-15の部品落下は昨年5件発生するなど相次いでいますが、今回の事故を含め飛行停止などの措置は取られていません。

辺野古 コンクリートブロックがサンゴを破壊 さらに巨大工事が

政府が設置したコンクリートブロックがサンゴを押しつぶしている写真が報道されています。少なくとも5か所で確認されたこのブロックは、立入禁止水域を示す浮き具を固定するため、政府が1月27日以降、最大45トンのトンブロックと呼ばれるアンカー投入です。

県は、水産資源保護の観点から海底を改変するような岩礁破砕行為に対し、知事の許可を得るよう義務を課していますが、防衛局は県の許可は不要と主張。防衛局の行為は違反行為です。

沖縄防衛局は1月27日、埋め立てに必要なケーソンを製作・設置する「シュワブ(H26)ケーソン新設工事(1工区)」で五洋建設・清水建設・みらい建設工業の共同企業体(JV)と131億500万円(税抜き)で契約しました。

この工事計画ですが、まず、名護市の近くの本部町の採石場で約6万個の石材を調達して、作業船で大浦湾に運び、海底に投下して護岸の土台を造ります。

三重県で護岸の一部となるハイブリッドケーソン(1基当たり長さ52メートル、幅22メートル、高さ24メートル、重量約7,400トンの鋼材と鉄筋コンクリートを一体化した箱)6基を製作し、半潜水式台船で大浦湾に運び、海中の基礎に設置、中詰砂を入れ、コンクリートで蓋をし、2017年9月末までに約300メートルの護岸を整備する予定。ただ防衛局は本体工事着手前に、県が埋め立て承認時に留意事項として付した「実施設計の協議」をする必要があります。

